

1 実施日 令和元年2月27日 14:00～ 本校校長室

2 出席者

学校関係者評価委員

内藤 純枝	学校評議委員	小澤 篤子	学校評議委員
中山 友江	学校評議委員	清水 こずゑ	学校評議委員 欠席
山本 由紀江	学校評議委員		
学校より	校長 秋澤 英俊	教頭 生山 静	
	教務主任 有泉 透		

3 会議で出された主な意見（学校自己評価書を事前に配り目を通していただいた中で当日意見を伺う）

○学校経営にかかわって

- ・各教科の指導計画・評価計画が適切に作成され、授業時数の確保が適切にされるよう工夫していったらいい。

○学校経営に関すること

◇学校運営組織

- ・働き方改革や、多忙化の解消に取り組んで成果が現れてきた。一部の職員に負担がかからないよう、分掌の割り振りなどをさらに工夫していったらいい。

◇特別支援教育

- ・支援スタッフの増員により、個への指導が充実している。今後もできるだけ、個に応じた丁寧な指導が継続できるようお願いしたい。

○学習指導に関すること

◇学習指導

- ・職員と生徒の良い人間関係が感じられ、授業の雰囲気がとても良い。
- ・地元企業からの寄贈もあり、ICT機器の整備が充実してきたのはとてもありがたい。授業でも積極的に活用できているようなので、より効果的に継続的な活用をお願いしたい。
- ・基礎基本の定着については、生徒と保護者の評価に差がある。学習面の成果としてあらわれる取り組みをすること。学校での全体的な取組の様子を、できるだけ保護者に理解してもらえよう工夫が必要である。

○生徒指導に関すること

◇生徒指導

- ・生徒指導に関わって大変さを感じることはない。今後も、個に応じた指導ときめ細かい指導の徹底が大切だろう。今の状態を維持できるように素早く適切な指導を心がけてもらいたい。また不登校生徒への対応も職員の共通理解のもと個に応じた取り組みを今後も継続していったらいい。

○保護者地域社会との連携に関すること

- ・部活動での外部指導者や体育のダンス授業による講師派遣など、大きな成果を上げている。地域人材で活用できる方を今後も模索し、必要に応じて活かしていけるようお願いしたい。
- ・地域の教育資源という言葉は、施設、設備、人材の活用など幅広い。アンケートに例示する必要がある。

○施設設備・防災に関すること

- ・築10年以上が経過し、修繕等が必要になるところが増えてきているようだが、生徒だけではなく先生方のためにも早期修繕を心がけ、今後もより安心安全な学習環境を整えていったらいい。

○その他

- ・地区懇談会の時期や内容を変更して行ったが、地域ではじめて会う保護者も参加している様子をみると今後も継続していったらいい行事である。
- ・先生方の取り組みで学校の雰囲気や学習環境が整っている。世の中の変化に対応していく力を生徒へ植え

付けていくことが今後はもっと必要になってくる。

【意見を受け来年度に向けて】

◇校務支援システム導入に合わせて職員の多忙化の取組では、少しでも多忙感を感じないような協働体制を構築させていくことや分掌上の電子ファイルの共有化を進め、業務の効率化を図り進めていきたい。

◇今後もＩＣＴ機器の効果的な活用方法の研究を継続しつつ、ＩＣＴ機器を積極的に取り入れた授業の充実を図ると共に、基礎基本の定着に向けての授業の工夫や改善を図っていきたい。

◇本校の教育目標・重点課題等を保護者や地域の方々の理解を得るため、学校だより等の情報発信を積極的に行うとともに、学校ブログ等の改善も進めていきたい。また地域連携の取り組みとしては、地域教材となる事業所との連携を深めながら職場体験の取組をより一層進めていくと同時に外部講師など教育活動の充実を図る人材についても模索しながら連携を進めていきたい。

◇特別支援教育にもより一層力を入れ、個に応じた学習体制の工夫を図りながら丁寧な指導をしていきたい。

◇不登校生徒への対応については、不登校部会を中心に具体的な改善策を審議し、より一層個に応じた指導の充実を図っていきたい。

◇学校行事を含めて充実した学校生活を送れている今だからこそ、学年の枠を越えた先輩と後輩の交流を活発に仕組み、伝統として先輩の姿を受け継いでいけるよう今後も指導に力を注いでいきたい。

◇自己評価について、おおむね良い評価になっているので、このまま自己評価結果を踏まえて改善するべきところは改善しながら実践していく。また、学校教育全般において、世の中の変化に対応する生きる力を生徒につけさせる実践を今後も進めていきたい。